



エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号 0013542

## 環境経営レポート

2024.4.1～2025.3.31

福寿製薬株式会社



レポート作成日：2025.07.01

FUKUZYU

## 組織の概要

### ■名称及び代表者名

福寿製薬株式会社  
代表取締役 小杉 照男

### ■所在地

〒939-8261 富山県富山市萩原 48 番地

### ■環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 管理本部長 藤巻 貴佳  
担当者 環境保全部 環境グループ 金山 憲太郎  
連絡先 TEL：076-429-1151  
FAX：076-429-6553

### ■事業内容

医療用医薬品原薬・中間体の製造  
治験用医薬品原薬・中間体の製造  
研究品合成  
合成プロセス開発  
分析試験方法開発  
医薬品原料の製造  
医薬品の粉砕

### ■事業規模

売上高 1,743 百万円（2021 年 3 月）：環境目標基準年度  
2,332 百万円（2025 年 3 月）  
従業員 99 人（2025 年 6 月）  
敷地面積 27,184 m<sup>2</sup>

### ■事業年度 4 月～3 月

## 対象範囲

### ■認証・登録の対象組織

登録組織名 福寿製薬株式会社  
対象事業所：本社・工場  
事業活動：  
医療用・治験用医薬品原薬・中間体の製造、  
研究品合成、合成プロセス開発、  
分析試験方法開発、医薬品原料の製造、  
医薬品の粉砕



## 福寿製薬について

1950年の創立以来、多品目、小ロット生産を基軸に、開発段階に必要な原薬・中間体の製造を行ってきた福寿製薬は、こうしたニーズに対応できる技術力の向上と業務のスピード化に努めています。

一方で原点に立ち返り、お客様の顔を見てリクエストを丁寧にお聞きする「アナログ型営業」を大切に、お客様との信頼関係を日々築いております。

我々に求められる業務は多様化していく傾向があり、日々新サービスへの対応にも取り組んでおります。

世界の指標とされるFDAをはじめとする査察をクリアすることでさらに強化したGMP体制のもと、安心・安全な製造に努めています。

近年では、固定概念にとらわれず「どうすればできるか」を合言葉に、開発型受託や取り扱いの難しい合成にも積極的に取り組んでおります。

医薬品をつくることで、お客様と地域社会のしあわせな未来をつくっている。この想いのもと、これからも歩み続けてまいります。



代表取締役 小杉 照男

## 環境経営方針

### ■ 基本理念

私たちは人々のしあわせを願い、美しい地球環境を未来に残すため、環境にやさしい医薬品づくりを行います。また、人々の健やかで豊かな生活に貢献することを永続的企業の目的とし、その企業活動において自主的かつ積極的に環境保全活動を行います。

### ■ 行動方針

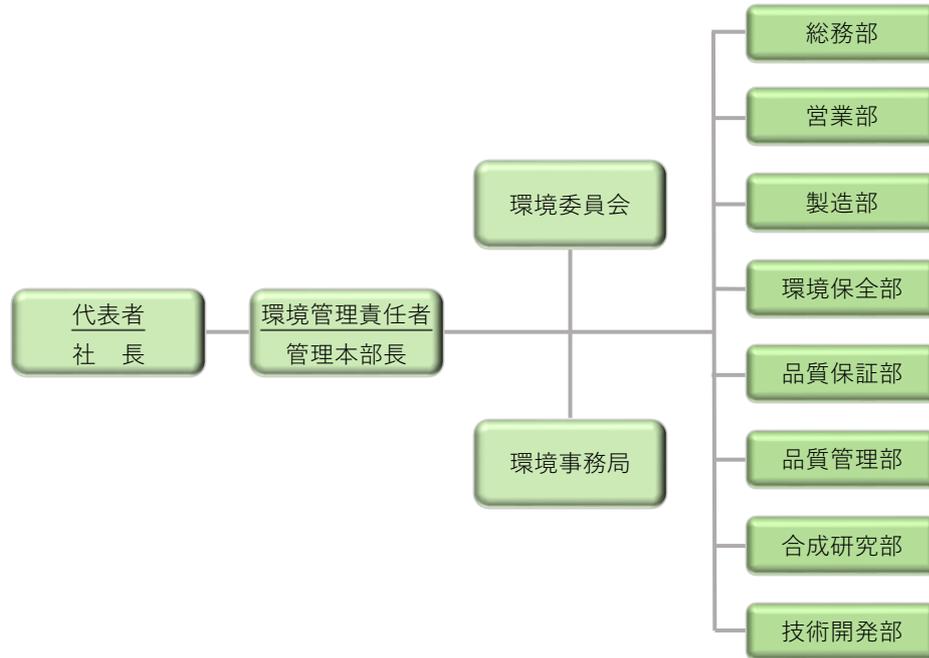
1. 環境関連法規制を遵守の上で事業活動を行います
2. 二酸化炭素（電気、LPG）の排出量の削減に継続的に取り組みます
3. 水資源を効率的に使用し、使用量の削減に継続的に取り組みます
4. 産業廃棄物（汚泥、廃油）の排出量を把握し適正管理に努めます
5. 化学物質の保管管理を徹底し、PRTR 対象の化学物質については使用量を把握し適正管理に努めます
6. GMP に基づいた医薬品づくりを行うことで製品不良の発生を抑制し、環境への負荷軽減につながります
7. 5 S 活動の継続的な取り組みを通じて作業の合理化と効率化を図り、環境への負荷軽減につながります
8. 本環境活動を通して従業員の環境に対する理解度を深め、意識の向上を図ります

2020年12月22日

福寿製薬株式会社

代表取締役 小杉 照男

## 実施体制と役割



### 役割・責任・権限

代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技能者を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し</li> <li>環境経営目標・環境経営活動計画書／実施確認書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境事務局メンバーを任命</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営活動計画書／実施確認書を確認</li> <li>環境経営活動の取り組み結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> <li>従業員に対する環境活動の全般的な教育訓練の実施</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営目標・環境経営活動計画書／実施確認書の審議</li> <li>上記計画の実行と進捗管理（達成状況の把握と是正措置の検討）</li> <li>問題点等の審議</li> <li>環境管理責任者への意見具申</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局</li> <li>環境への負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標・環境経営活動計画書原案の作成</li> <li>環境経営活動の実績集計、環境経営レポートの作成・公開</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>問題点の発見、是正、予防措置</li> <li>特定された項目の手順書作成及び教育訓練の実施</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施</li> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門に関連する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門の特定された項目の手順書の運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、教育訓練の実施及び運用管理</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防措置、環境事務局への報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加</li> <li>環境改善への意見提案や環境問題・異常時の部門長への報告</li> </ul>

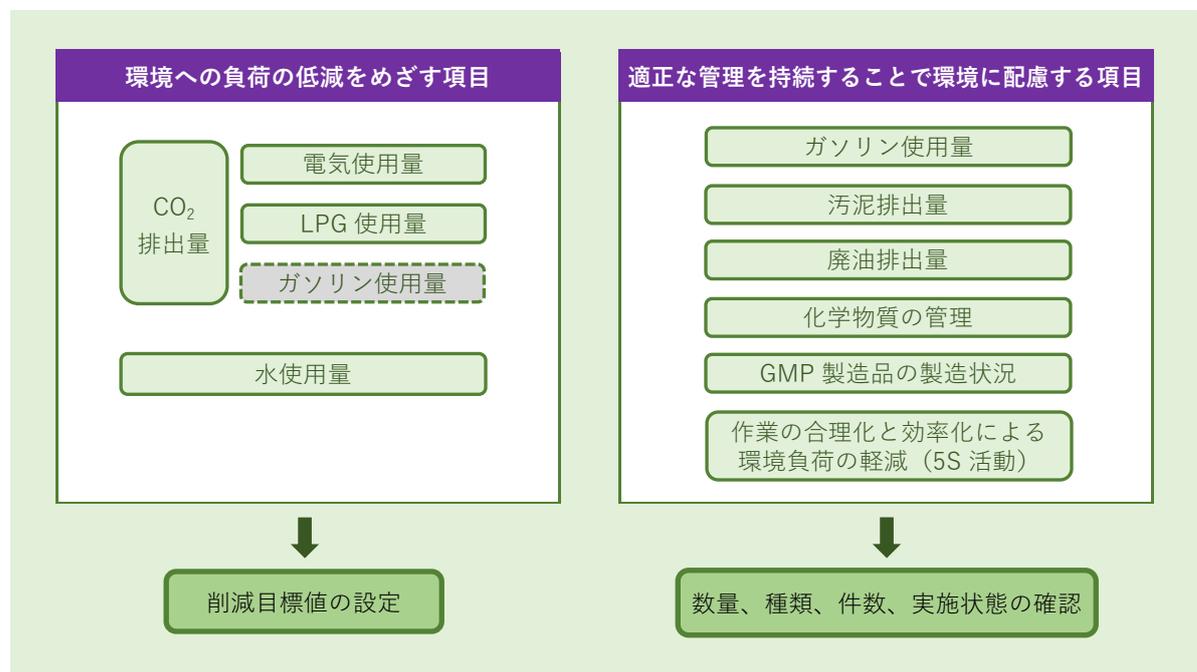
## 環境経営目標の設定

福寿製薬は、削減目標値の設定を伴う「環境への負荷の低減をめざす項目」と「適正な管理を持続することで環境に配慮する項目」の二面から環境経営活動を行っています。

電気、LPG（液化石油ガス）、水については、設定した目標値をクリアできるよう活動を推進していきます。

ガソリンについては、現在、軽四トラック 1 台とフォークリフト 1 台の燃料にのみ使用し、年間使用量も低い数値で安定しています。当面は目標値の設定は行わず、使用量の推移を確認していきます。

汚泥、廃油、取り扱う化学物質については、受託した品目の製造法や製造量によって排出量や使用量が変化し、また、製造法の変更等は委託元の許可がないと変更できない場合が多いことから、目標値の設定は行わないこととします。しかしながら、排出された廃棄物や使用した化学物質の種類、数量を継続して確認していく中で、現状から改善できる点がないかを常に考えていきます。



### ■電気、LPG、水の目標値設定

2024 年度、2025 年度、2026 年度の目標値は、全て 2020 年度の実績値を基準としています。

#### 3 年間（2024 年度、2025 年度、2026 年度）の目標値

目標値 電気：基準値に対して 2024 年度 2%削減 2025 年度 2%削減 2026 年度 2%削減  
LPG：基準値に対して 2024 年度 2%削減 2025 年度 2%削減 2026 年度 2%削減  
水：基準値に対して 2024 年度 7%削減 2025 年度 7%削減 2026 年度 7%削減

		基準値		目標値			
		2020 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度		
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,225,263	1,200,759	1,200,759	1,200,759		
電気使用量	kWh	1,264,033	-2%	1,238,752	-2%	1,238,752	-2%
	kg-CO <sub>2</sub>	587,775	-2%	576,019	-2%	576,019	-2%
LPG 使用量	kg	198,170	-2%	194,207	-2%	194,207	-2%
	kg-CO <sub>2</sub>	594,510	-2%	582,620	-2%	582,620	-2%
水使用量	m <sup>3</sup>	405,097	-7%	376,740	-7%	376,740	-7%

二酸化炭素排出係数：0.465 kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2022 年度温室効果ガス排出量算定用係数）

## 環境経営計画

### ■環境への負荷の低減をめざす項目について

目標を達成するために取り組む内容を下表に示しました。

#### 3年間（2024年度、2025年度、2026年度）の取り組み

目標値 電気：基準値に対して 2024年度 2%削減 2025年度 2%削減 2026年度 2%削減  
LPG：基準値に対して 2024年度 2%削減 2025年度 2%削減 2026年度 2%削減  
水：基準値に対して 2024年度 7%削減 2025年度 7%削減 2026年度 7%削減

	取り組み内容		
	2024年度	2025年度	2026年度
電気使用量	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調システムの適宜稼働停止</li> <li>事務所のエアコン設定温度の見直し</li> <li>LED照明への切り替え</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>インバーター付き設備への順次更新</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調システムの適宜稼働停止</li> <li>事務所のエアコン設定温度の見直し</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>インバーター付き設備への順次更新</li> <li>気づき力の強化</li> <li>新社屋完成による省力化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調システムの適宜稼働停止</li> <li>事務所のエアコン設定温度の見直し</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>インバーター付き設備への順次更新</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>
LPG 使用量	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料効率の悪化防止（メンテナンスの実施）</li> <li>蒸気供給バルブ開閉の日常管理</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料効率の悪化防止（メンテナンスの実施）</li> <li>蒸気供給バルブ開閉の日常管理</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>気づき力の強化</li> <li>新社屋完成による省力化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料効率の悪化防止（メンテナンスの実施）</li> <li>蒸気供給バルブ開閉の日常管理</li> <li>使用量の見える化による意識向上</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>
水使用量	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水を促す啓蒙表示を行う</li> <li>使用時の節水に努める</li> <li>使用水の再利用</li> <li>設備の冷却方法を順次更新（冷却水から冷媒（ライン）による冷却方法に変更することで地下水使用量を削減）</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水を促す啓蒙表示を行う</li> <li>使用時の節水に努める</li> <li>使用水の再利用</li> <li>設備の冷却方法を順次更新（冷却水から冷媒（ライン）による冷却方法に変更することで地下水使用量を削減）</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水を促す啓蒙表示を行う</li> <li>使用時の節水に努める</li> <li>使用水の再利用</li> <li>設備の冷却方法を順次更新（冷却水から冷媒（ライン）による冷却方法に変更することで地下水使用量を削減）</li> <li>気づき力の強化</li> </ul>

■適正な管理を持続することで環境に配慮する項目について  
管理内容を下表に示しました。

### 3年間（2024年度、2025年度、2026年度）の管理内容

	管理内容		
	2024年度	2025年度	2026年度
ガソリン使用量	使用したガソリンの量を確認		
汚泥排出量	電子マニフェストにより適切な廃棄処理が行われていることを確認 排出された廃棄物の種類、量を確認		
廃油排出量	電子マニフェストにより適切な廃棄処理が行われていることを確認 排出された廃棄物の種類、量を確認		
一般廃棄物排出量の管理	電子マニフェストにより適切な廃棄処理が行われていることを確認 排出された廃棄物の種類、量を確認		
化学物質の管理	出納管理記録書への記載が適正に行われていることを確認 使用した化学物質の種類、量を確認 各倉庫、屋外貯蔵所の保管状態を確認 使用する原料のSDSを継続的に収集し、危険性・有害性の把握に努める PRTR対象化学物質の種類、使用量の確認		
GMP製造品の製造状況	有効期限切れ等による廃棄製品数の把握 回収・返品製品数の把握 逸脱処理・異常処理件数の把握 再加工・再処理件数の把握 自己点検によるCAPA対応件数の把握		
作業の合理化と効率化による環境負荷の軽減（5S活動の継続）	全部門に対し5S検査を毎月実施 5S検査で不具合があった箇所への改善が適切に行われていることを確認 自主的な改善の推進		

#### 用語

GMP	Good Manufacturing Practiceの略で、医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準。GMP省令、ICHQ7A（原薬GMPのガイドライン）、C-GMP、EUGMP、PIC/S GMP及び治験薬GMP（治験薬の製造管理、品質管理等の基準）等の全てを包括したものを指す。
有効期限	製造年月日に有効期間を加算した期日をいう。この期日を過ぎた製品は出荷してはならない。
再加工	再加工（Reprocessing）とは、基準又は規格に適合しない中間体又は製品等及びリテスト期日を超過した製品等を前工程に戻し、設定された製造工程（承認書、製品標準書に規定された製造工程を指す）である結晶化段階又はその他の適切な化学的又は物理的操作段階（ex.蒸留、濾過、乾燥、粉碎等）を繰り返し行うこと。
再処理	再処理（Reworking）とは、基準又は規格に適合していない中間体又は製品等についてその品質を適切なものにするために、設定された製造工程（承認書、製品標準書に規定された製造工程を指す）とは異なる処理段階（ex.異なる溶媒による再結晶等）を行うこと。
自己点検	GMP省令で定められている事項。製造管理及び品質管理の実態を把握し、適切な改善処理をする為に定期的に行う内部点検。
5S活動	福寿製薬における5S活動とは、その目的を 1.生産性を高める 2.高い安全性を確保・精神衛生上の環境良化を図る 3.情報管理の徹底 4.責任感の醸成 とし、整理、整頓、清掃、清潔、躰に取り組むものである。毎月、抜き打ち検査を行っている。

## 環境経営目標に対する実績

### ■環境への負荷の低減をめざす項目について

福寿製薬は 2021 年 2 月に活動をスタートさせてから、2025 年 3 月をもって 4 年余り環境活動に取り組み、環境経営計画に沿って各部署が取り組みを進めてまいりました。2024 年度は、電気及び LPG について、目標未達となりました。これは、製造工程の複雑化及び工程増加によるものと考えられます。2024 年度に引き続き、2025 年 2 月及び 3 月に削減強化月間を設定し、再度各部署での取り組みを徹底しました。結果として実績値は目標未達でしたが、原単位（製造品目数）での削減は達成出来ました。

### 対象活動期間（2024 年度）の実績値

目標値 電気：基準値に対して 2%削減  
LPG：基準値に対して 2%削減  
水：基準値に対して 7%削減

		基準値		目標値		実績値		評価
		2020 年度		2024 年度		2024 年度		
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,182,285		1,158,637		1,450,437		×
下段はガソリン使用量を含めた値		1,183,355		—		1,451,606		—
電気使用量	kWh	1,264,033		1,238,75		1,589,549		×
	kg-CO <sub>2</sub>	587,775	-2%	576,019	+26%	739,140		×
LPG 使用量	kg	198,170		194,206		237,099		×
	kg-CO <sub>2</sub>	594,510	-2%	582,618	+20%	711,297		×
ガソリン使用量	L	461		—		504		—
	kg-CO <sub>2</sub>	1070		—		1169		—
水使用量	m <sup>3</sup>	405,097	-7%	376,744	-13%	353,651		○

- ・二酸化炭素排出係数：0.465 kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2022 年度温室効果ガス排出量算定用係数）
- ・ガソリンは「適正な管理を継続する項目」としていることから、現在のところ目標値の設定はしていません。
- ・2024 年度実績値での電気使用量「739,140 (kg-CO<sub>2</sub>)」は、月ごとの電気使用量 (kWh) に二酸化炭素排出係数を乗算した値を合算したものの。

### (参考)

2020 年度と 2024 年度の売上高及び受注件数について比較してみると、受注件数は 174 案件から 165 案件と減少しましたが、売上高は 1,743 百万円から 2,332 百万円と 134%超となりました。

また、案件数としては減少しましたが、1 案件当たりの製造工程数の増加に伴い、工場稼働率が増えたことにより、企業活動は活発化していました。

参考として、電気、LPG、水の使用量について、売上高における原単位の比較を下表に示しました。

		基準値		実績値	
		2020 年度		2024 年度	
		使用量	原単位	使用量	原単位
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,182,285	678.3	1,450,437	622.0
下段はガソリン使用量を含めた値		1,183,355	678.9	1,451,606	622.5
電気使用量	kWh	1,264,033	725.2	1,589,549	681.6
	kg-CO <sub>2</sub>	587,775	337.2	739,140	317.0
LPG 使用量	kg	198,170	113.7	237,099	101.7
	kg-CO <sub>2</sub>	594,510	341.1	711,297	305.0
ガソリン使用量	L	461	0.3	504	0.2
	kg-CO <sub>2</sub>	1070	0.6	1169	0.5
水使用量	m <sup>3</sup>	405,097	232.4	353,651	151.7

基準値の原単位：2020 年度売上高（1,743 百万円）より算出  
実績値の原単位：2024 年度売上高（2,332 百万円）より算出

電気 原単位 = 電気使用量 ÷ 売上高

LPG 原単位 = LPG 使用量 ÷ 売上高

水 原単位 = 水使用量 ÷ 売上高

## 環境経営計画に対する取り組み結果

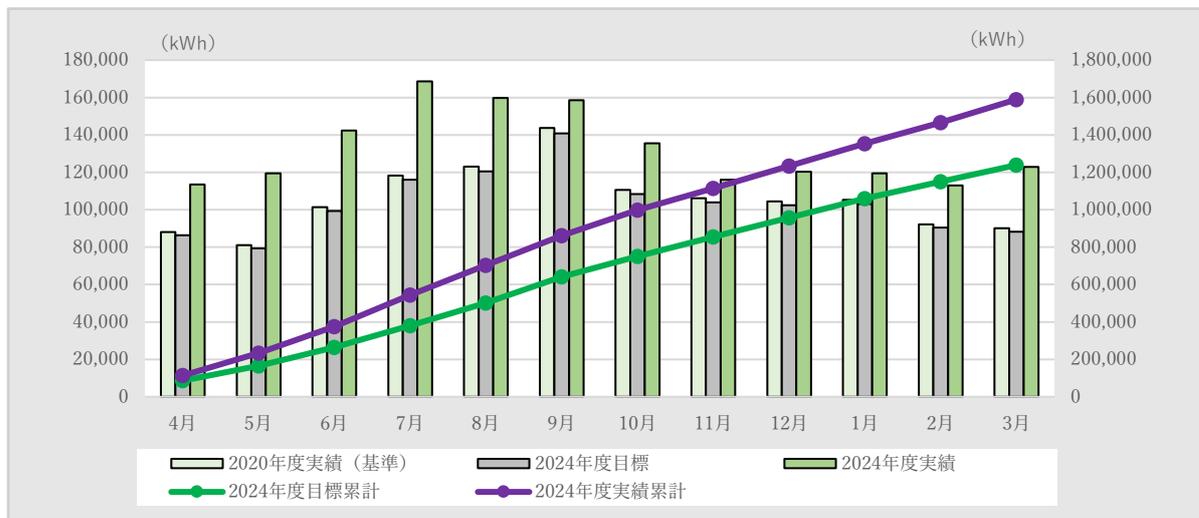
### 電気使用量の削減をめざして

#### 2024 年度使用量

月毎の目標は、全ての月で目標未達となりました。結果として年間の累計量では目標値より 28% 増となりました。

これは、2020 年度と比較して、製造工程が複雑化 及び 工程数が増えたことにより、稼働率が増加したものと考えられます。また、7 月～9 月は、2020 年度より、真夏日及び猛暑日が増加したことで、他の月と比較した際に、特に使用量が増加したと考えられます。

2024 年度は、2 月及び 3 月を削減強化月間に指定し、使用量の削減について再度周知し、削減に取り組みました。2025 年度は目標達成できるように、呼びかけの強化及び気づき力の強化を継続いたします。



#### 2024 年度の取り組み

##### ■ 人感センサー付照明への変更

福寿製薬の工場に設置されているクリーンルーム前室の照明を、人感センサー付照明へ変更しました。

人感センサー付照明を設置することで、不要な電気の削減に努めました。



人感センサー付き照明

##### ■ 食堂のエアコン内部の清掃

食堂のエアコン内部の清掃を実施しました。各エアコンに対しては、各部署で定期的にエアコンフィルターの清掃を実施していますが、食堂のエアコンについては天井に設置してあることから、清掃ができていませんでした。業者に依頼し、清掃を実施したことにより、エアコンの運転効率を向上させることができたと考えます。

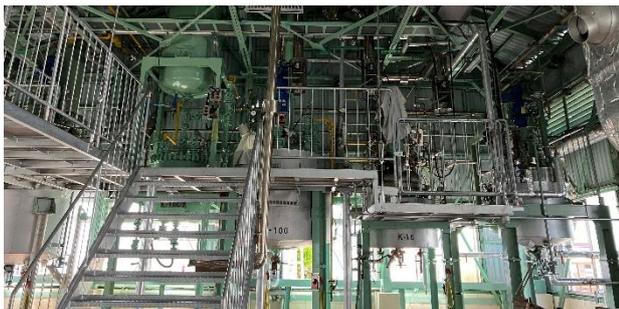


食堂のエアコン内部の清掃の様子

## ■ 1 工場 更新工事

2024年7月～8月に1工場更新工事を実施しました。

全体換気装置の設置と共に、老朽化が進んでいた反応蒸留釜3基を更新しました。更新によって、操作性や熱効率・冷却効率がアップし、操作時間の短縮が見込まれることから、電気、LPG、水の使用量の削減につながると考えます。また3基ともインバータ付きの電動機に変更することにより、作業性の向上を図ると共に、省エネにも配慮しました。



1 工場 更新後

## ■ その他の取り組み

- ・朝礼や部内ミーティングにおいて、節電・節水・LPGの節約の呼びかけを継続し、実施しました。
- ・全部署で節電の啓蒙表示を行い、使用していない場所や室内が不在となる際の消灯を実施しました。
- ・夜間は、食堂や工場の照明について、一部消灯を実施しました。
- ・第3乾燥室の照明について、一部LEDへの切り替えが完了しました。
- ・一部のトイレや外灯などの照明について、自動点灯化を実施しました。
- ・事務所にいる空気清浄機、蒸気暖房の各フィルターの清掃を定期的に行いました。
- ・斜光フィルムを出入口のドアに貼り、日射熱を遮断することで省エネにつなげるよう継続し、実施しました。
- ・冷蔵保管庫内の試薬等を整理し、冷却効率を向上させ省エネにつなげるよう継続し、実施しました。
- ・食堂に毎月の使用量を掲示し、全従業員に回覧しました。また、会社専用ソフトウェアを使用し、全社員がPC及びスマートフォンで内容を確認できるようにしました。

## LPG 使用量の削減をめざして

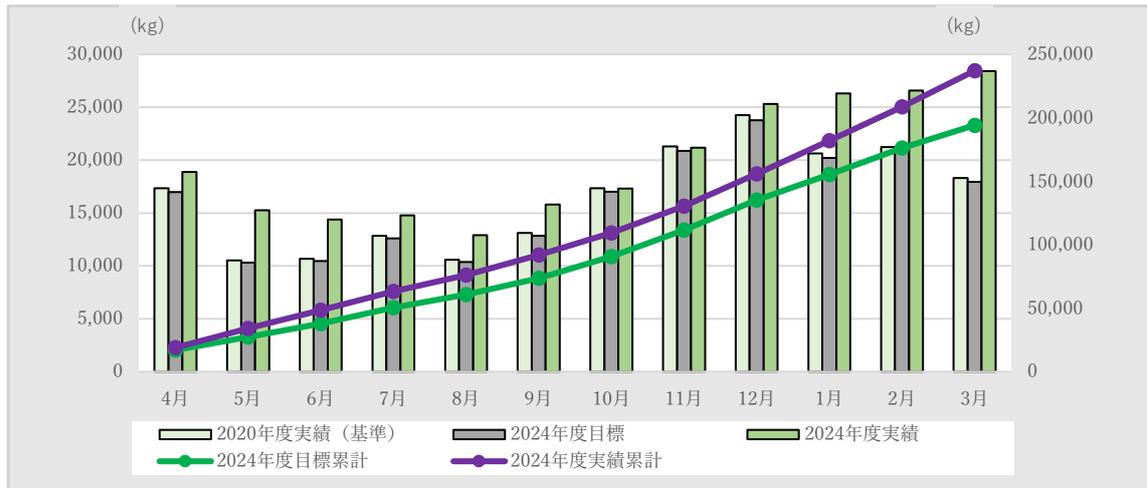
### 2024 年度使用量

月毎の目標は、全ての月で目標未達となりました。結果として年間の累計量では目標値より 22% 増となりました。

こちらについても、電気と同様に 2020 年度と比較して、製造工程が複雑化 及び 工程数が増えたことにより、稼働率が増加したものと考えられます。

また、LPG についても、削減強化月間に 2 月及び 3 月を指定し、使用量の削減について再度周知し、削減に取り組みました。

2025 年度は目標達成できるように、呼びかけの強化及び気づき力の強化を継続いたします。



### 2024 年度の取り組み

#### ■ 燃料効率の悪化防止（メンテナンスの実施）

福寿製薬では、LPG を燃料とした小型ボイラーを 2 基使用しています。

メンテナンスについては専門業者に委託し、定期的に点検を行っています。また、自社による日常点検やメンテナンス業者から提供される「ボイラー診断月報」により運転状況を確認しています。

なお、2024 年度においては、ボイラーに関するトラブルは発生しませんでした。



小型ボイラー 1 号機、2 号機

#### ■ 蒸気供給バルブ開閉の日常管理

製造実施前に、適宜、各工場の蒸気配管やバルブ等からの蒸気漏れがないかを点検し、不具合が見られた配管については修理を行いました。その後も、蒸気漏れに気づいた都度、環境保全部が中心となって配管やバルブの更新・補修を速やかに行っています。

引き続き、蒸気供給バルブの開閉は製造部が管理を行い、退社時の「閉」については必ず最終確認をしています。また、無駄な蒸気の使用を減らすため、未稼働工場の蒸気元バルブの「閉」を徹底するよう、朝礼等で呼びかけています。



各方面への蒸気供給元バルブの様子

#### ■ その他の取り組み

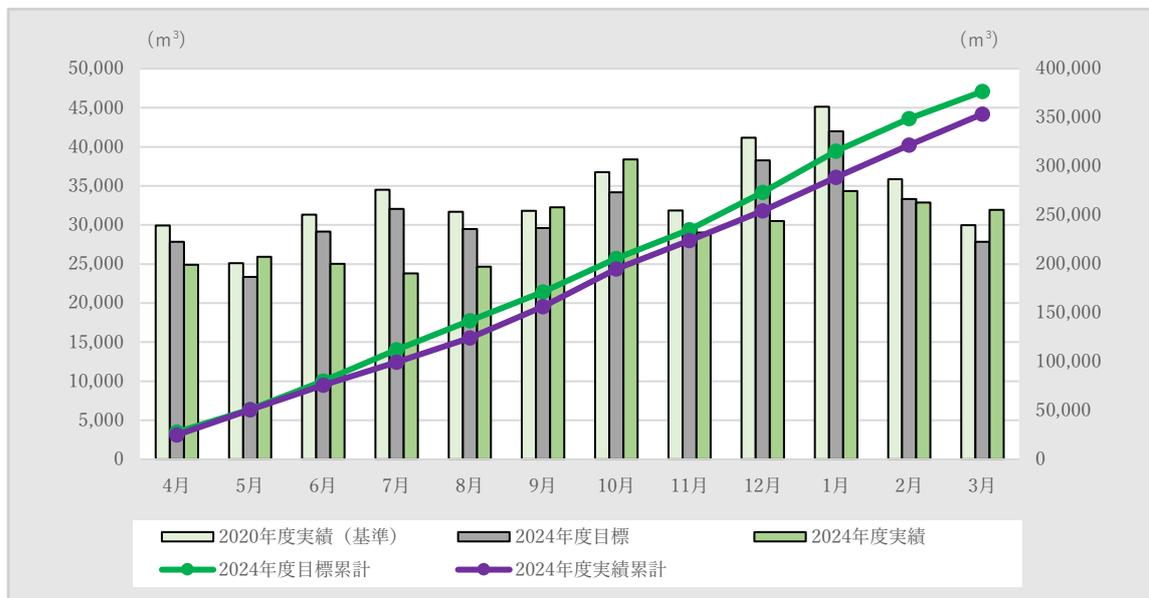
- ・ 食堂に毎月の使用量を掲示し、全従業員に回覧しました。また、会社専用ソフトウェアを使用し、全社員が PC 及びスマートフォンで内容を確認できるようにしました。

## 水使用量の削減をめざして

### 2024 年度使用量

月毎の目標は、ほぼ全ての月で目標達成となりました。冬期間はあまり積雪もなく、融雪水の再利用も少なく済みました。また、節水を促す啓蒙や取り組みだけでなく、気付き力の強化によって、不要な箇所の節水を行えたと考えます。そのため、年間の累計量では目標値より6%減となりました。

2025 年度も目標達成できるように、呼びかけの強化を継続し、実施いたします。



### 2024 年度の取り組み

#### ■ 節水を促す啓蒙表示

閉めてはいけない箇所の蛇口の一部分について、一目でわかるように表示をしました。

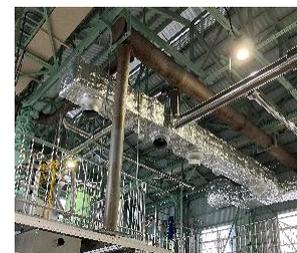
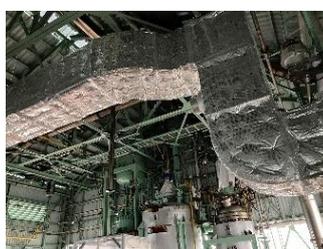
2025 年度も引き続き「節水」について考え、環境委員会をはじめ、各部署での朝礼や部内ミーティングで節水の呼びかけを継続しています。



#### ■ 1 工場及び 2 工場の全体換気装置

2024 年 7 月～8 月に 1 工場の更新工事、2025 年 1 月～2 月に 2 工場更新工事を実施しました。

1 工場及び 2 工場に全体換気装置を設置したことにより、製造作業で使用する冷却水を循環させ、工場内の温度の上昇を抑えることができるため、今までよりも環境負荷を低減することができます。



## ■ 節水への取り組み

- ・水漏れ箇所を確認し、工場非稼働時に修繕しました。
- ・製造作業で使用する冷却水について節水しました。  
製造部では、水を使用しての冷却操作が終了した際には、可能であれば水を「止める」「弱める」の操作を行い、過剰な水を使用しないように努めました。
- ・夕方に各工場を確認し、使用していない工場で水を使用中の場合は、「止める」「弱める」の声かけを実施しました。
- ・冬期間は凍結破損防止のために製造設備への夜間通水が必要となり水の使用量が増えるため、節水徹底をアナウンスしました。
- ・融雪水量をこまめに調節しました。  
降雪時は、工場内及び融雪用の常水配管をこまめにチェックし、水が必要以上に流しっぱなしにならないようバルブ調節により水量を調整しました。
- ・食堂に毎月の使用量を掲示し、全従業員に回覧しました。また、会社専用ソフトウェアを使用し、全社員が PC 及びスマートフォンで内容を確認できるようにしました。

## ■ 使用済み冷却水を融雪水として再利用

製造作業では、原料を加熱して反応処理させた後や、結晶を析出させる際には、反応釜のジャケットに通水をして冷却操作を行うことがあります。この冷却水を排水路からポンプで汲み上げ、工場内3か所にホースで分配し、融雪水として再利用する仕組みを自社で作成し、12月～2月に稼働しました。



汲み上げた水を2工場と1工場に分岐



2工場北側の様子



1工場北側の様子

## ガソリン使用量について

福寿製薬では、現在ガソリンは、軽四トラック 1 台とフォークリフト 1 台の燃料に使用しており、使用状況の内訳は 9 割以上がフォークリフトの使用となっています。

引き続き、無駄な使用が起きないように年間を通して使用量の推移を確認していきます。

### ■ガソリンの使用

	2023 年度	2024 年度
ガソリン使用量	342 L	504 L

## 汚泥、廃油排出量について

電子マニフェストにより、排出した汚泥及び廃油が適切に処理、管理されていることを確認しました。

### ■余剰汚泥の排出

	2023	2024 年度
汚泥排出量	- kg	303,800 kg

2024 年度は、廃水処理場の余剰汚泥を別項目とし、数量の確認を実施しました。

### ■汚泥の排出

	2023 年度	2024 年度
汚泥排出量	147,553 kg	20,111 kg
再資源化量	887 kg	14,311 kg

2024 年度は、廃水処理場の余剰汚泥を汚泥から除いたため、再資源化率が 0.006% から 71% と増加したように見えています。

### ■廃油の排出

	2023 年度	2024 年度
廃油排出量	186,823 kg	213,704 kg
再資源化量	185,691 kg	213,704 kg

2024 年度は、製造の増加に伴い排出量が増加しました。また、廃油の特性により、再資源化が増加しました。

## 化学物質の管理について

使用した化学物質の名称、管理番号および使用量を出納管理記録書に適切に記載しました。

また、各倉庫の温度記録や、屋外貯蔵所の保管状態の記録をもとに、保管容器等の外観や封緘に異常がなく、適切に保管管理されていることを確認しました。

SDS については製造品目ごとに使用原料の情報を入手し、その都度 SDS の PDF 化を行い、情報の更新に努めています。

PRTR 対象物質については、使用量を出納管理記録書に反映させるとともに、「月別使用一覧」を作成し、物質名や使用量の把握が容易にできるようにしています。

### PRTR 対象物質の使用

	2023 年度	2024 年度
使用した PRTR 対象物質数	37 物質	41 物質

## GMP 製造品の製造状況について

下表の管理項目に対して、適切に確認を行いました。

「逸脱処理・異常処理件数」は、年間で 70 件発生し、2023 年度よりも 1 件減少しましたが、「人為的な誤りによる逸脱」の件数は増加しました。

製造頻度の少ない新規製造品目に関しては、発生件数が多くなる傾向にあります。そのため、知識不足の解消や、共通認識を持つために、製造前に実施する説明会では、従来よりも詳細な内容を含めたものへの見直しを図りました。

また、逸脱・試験異常に伴う再加工の措置が 2 件ありました。どちらも製造工程における不備であり、そのうちの 1 件に関しては再試験を実施しましたので、環境への負荷は大きいといえます。

福寿製薬は逸脱や異常等が発生した際には、お取引先に虚偽のない報告を行い、報告書の作成や CAPA（是正措置・予防措置）への対応を GMP に基づき適正に行っています。

2025 年度は環境への負荷を低減するよう、引き続き適正な管理に努めてまいります。

### 管理項目に対する件数

管理項目	2023 年度	2024 年度
有効期限切れ等による廃棄製品数	0 件	0 件
回収・返品製品数	1 件	0 件
逸脱処理・異常処理件数	71 件	70 件
再加工・再処理件数	2 件	2 件
自己点検による CAPA 対応件数	2 件	1 件

## 作業の合理化と効率化による環境負荷の軽減について（5S 活動の継続）

福寿製薬では「5S の徹底」を会社の重点方針の一つとしています。

全部署で 5S に取り組み、毎月抜き打ちで 5S 検査を実施しています。

5S 検査開始時（2020 年 10 月）に比べると、整理・整頓の面では着実に良くなっていることから、適切な表示、動線の改善、無駄の排除などによって少なからず作業の効率アップが図られていると考えます。

5S 活動による様々な改善が「環境負荷の軽減」にも連動していることを意識し、今後も従業員全員で 5S 活動に取り組んでいきます。

## その他の取り組み

### 汚染水漏洩防止訓練の実施

福寿製薬では、2024年5月と11月に汚染水漏洩防止訓練を行いました。2024年5月は、防止訓練当日に汚染水が漏洩するトラブルが発生したため、訓練ではなく実地となりました。また、2024年度は、排水に関するトラブルが3件発生いたしました。いずれも、公共用水域への有害物質の流出はありません。2021年4月から訓練を開始して、まだ反省点や改善箇所がありますが、今後も毎年2回、定期的に訓練を実施し、不慮の事故が発生した際には工場内からの漏洩が決して起こらぬよう、訓練を重ねてまいります。また、訓練のスピード化を図る上でも、継続して時間測定を行い改善していきたいと考えております。来期も、訓練マニュアルの充実や従業員への手順の周知・徹底に努めるとともに、事故の発生に備え、工場内排水路に設置した遮断板を使用し、漏洩防止対策を行います。



汚染水をポンプや柄杓で汲み上げている様子



側溝にオイルキャッチャーを設置して漏洩防止する様子

### 消防訓練の実施

消防訓練は年2回、定期的に行っています。訓練前には班長会議を、訓練後には反省会議を開催し、訓練の都度、従業員への役割の周知と問題点の把握・改善を行い非常時に備えています。2024年11月には、消防との合同訓練を実施しました。訓練の後には、実際に消火器を使用し、消火作業を体験しました。また、消防の方より、メタノールの出火についての危険性について教育を受講しました。



けが人救助を想定した様子



消火を想定した様子

## 敷地境界における騒音調査

福寿製薬の工場周辺には一般住宅や集合住宅があります。そこで敷地境界線付近における工場からの騒音について、都度測定を実施しております。2024年度は3月に測定を実施しました。今後も環境測定と並行し、定期的に騒音測定を実施していく予定です。



騒音調査ポイント5地点

※地図アプリ Google マップ 航空写真を利用しています。

## 安全に関する教育

工場での製造作業はもとより、品質管理部門や研究部門においても常に危険物を取り扱う作業が伴います。2024年度は、製造担当者に必要な資格や、安全に関する資格の取得、講習会の受講をより一層積極的に行うこととしました。引き続き資格取得に向けて進めていきたいと考えています。

### ■安全に関する主な資格取得状況

資格	2024年度取得者数	取得者総数
危険物取扱者	7人	54人
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	5人	18人
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	5人	13人
有機溶剤作業主任者	9人	28人

取得者総数：2025年3月末現在

## グリーン購入、リサイクルなど

オフィス用品を購入する際には、グリーン商品を優先して購入するようにしています。  
また、バイオマスプラスチック製のごみ袋の使用も継続して実施しています。  
製造機器の更新等に伴い、不要な部品の買い取りを依頼してリサイクル、リユースにつなげました。

## ペーパーレスへの取り組み

福寿製薬では全部署でペーパーレスに取り組んでいます。  
既存文書の電子化、電子データでの情報の伝達、閲覧、記録、保管を推進していくことで、業務の効率化を図るとともに、紙の使用量を減らしていくことにより環境への配慮を継続していきます。

### ■主な取り組み内容

- ・不要な印刷をしないことを意識する
- ・既存の書類・資料等を電子データに移行（継続中）
- ・既存の取扱説明書、部署内で共有したい作業やルールを電子マニュアル化（継続中）
- ・各種資料、委員会議事録等を電子データで閲覧・保管
- ・各種会議では紙資料を配布せず、個人のパソコンで資料等を閲覧
- ・物流部門を中心に製品出荷や原料納入のスケジュール管理を電子化
- ・研究部門では実験結果等を電子実験ノートに記録
- ・研究部門では試薬の注文を電子発注に変更
- ・総務部門では勤怠管理ソフトを入れ替え、紙で行っていた各種申請を電子化
- ・全部署において、作業日報の記入を紙から電子記録に変更

## エコバディス社のサステナビリティ調査による評価を受けています

EcoVadis 社<sup>\*1</sup>のサステナビリティ調査は、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4つの分野における企業の方針、施策、実績について評価するものです。

福寿製薬は2019年度より同社の評価を受けており、お取引先や社会から信頼される企業であり続けるため、今後も一歩ずつ評価の向上をめざしていきます。

また、2024年度は前年度より4点ダウンし、64点/100点となり、ブロンズメダルの評価となりました。2025年度は、シルバーメダルを獲得できるよう、進めてまいります。

Ecovadisのアナリストからは、「就業規則の定期的な見直しが必要」とのコメントがありました。

有効期間は2026年2月7日までです。

\*1 企業の持続可能性を独自の審査と分析によって客観的に調査・評価する国際的な機関。本社はフランス。

## 日本タンポポの保護活動

福寿製薬の東側に位置する熊野川河川敷に日本タンポポの生息箇所があります。福寿製薬創業 70 周年記念事業の一つとして、2018 年 10 月より熊野川河川敷の清掃活動と日本タンポポの保護活動を開始しました。

2025 年 4 月には、日本タンポポの綿毛を生えた場所とは別の場所で飛ばし、株を増やす活動を実施しました。

引き続き、社内をあげて保護活動を継続していきたいと考えています。



日本タンポポの綿毛を飛ばし、株を増やす活動を実施



2025 年 4 月撮影

## 関連法規等一覧及び遵守評価

### ■ 関連法規等一覧

福寿製薬が遵守すべき法規等を下表に示しました。環境に関する法規のほか、労働、安全、衛生等に関する法規についても記載しています。

法規等の名称	遵守すべき主な内容
大気汚染防止法	特定施設の確認
	各種届出書の提出
	規制基準の遵守
水質汚濁防止法	特定施設の確認
	各種届出書の提出
	特定施設の定期点検の実施
	規制基準の遵守
騒音規制法	特定施設の確認
	各種届出書の提出
	規制基準の遵守
悪臭防止法	対応すべき施設の確認
	規制基準の遵守
振動規制法	特定施設の確認
	各種届出書の提出
	規制基準の遵守
土壌汚染対策法	各種届出書の提出
廃棄物処理法	電子マニフェストを使用した廃棄物の登録と報告
	廃棄物の排出量の管理
	特別管理産業廃棄物処理計画書の提出
	特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書の提出
浄化槽法	各種届出書の提出
	法定検査、保守点検の実施
家電リサイクル法	家電製品の適正な分別排出
小型家電リサイクル法	小型家電製品の適正な分別排出
温対法	各種報告書の提出
省エネ法	各種届出書の提出
フロン排出抑制法	対応すべき機器の確認
	簡易点検の実施
	法定点検の実施（一定規模以上の第一種特定製品）
PRTR 法	使用量の確認
	PRTR 排出量等届出(年間取扱量が 1t 以上(特定第一種化学物質は 0.5t 以上))

法規等の名称	遵守すべき主な内容	
化学物資の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	各種届出書の提出	
	使用量の確認	
公害防止組織法	公害防止統括者、公害防止管理者の選任	
	各種届出書の提出	
電気事業法	各種届出書の提出	
	法定点検、法定自主点検の実施	
高圧ガス保安法	オートクレーブ	各種届出書の提出
	LPG タンク（2.9t）	定期自主検査の実施
消防法	防火管理者選任(解任)届出	
	訓練	自衛消防訓練計画書届出
		消防訓練および避難訓練実施
	防火対象物の使用開始届出	
	消防用設備等	設置届出
		消防用設備等の点検(外部)実施及び点検結果報告書届出
	危険物製造所等	危険物製造所等の設置(変更)許可申請
		危険物製造所等の完成検査申請
		危険物製造所等の譲渡、引渡届出
		危険物の品名、数量の変更届出
		危険物製造所等の廃止届出
		危険物保安監督者選任(解任)届出
		予防規程の制定(変更)許可申請
	製造所等の定期点検	
危険物取扱者保安講習の受講		
労働安全衛生規則（安衛則）	フォークリフト	法定検査、定期自主検査の実施
		作業計画の作成
	各種健康診断の実施と報告	
	騒音測定の実施と報告	
	化学物質等による危険性又は有害性	総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者、産業医、化学物質管理者、保護具着用管理者の選任
		SDS の確認及び従業員への周知
		化学物質リスクアセスメントの作成 説明会等において該当する化学物質を取扱う作業員への危険有害性の周知
労働者死傷病報告の提出		
労働安全衛生法	局所排気装置	定期自主検査の実施
	遠心分離機	定期自主検査の実施
	教育の受講	低圧電気取扱業務特別教育(外部)
		アーク溶接等業務特別教育(外部)
		玉掛け特別教育(外部)
		自由研削といしの取り換え特別教育(外部) 安全衛生特別教育(社内)の実施
建築基準法	研究棟エレベーター	法定点検、法定自主点検の実施

法規等の名称	遵守すべき主な内容	
有機溶剤中毒予防規則	局所排気装置	定期自主検査(外部)の実施
		点検(社内)の実施
		作業主任者の選任
		作業環境測定の実施
ボイラー及び圧力容器安全規則	小型ボイラー	定期自主検査の実施
	第1種圧力容器	性能検査(外部)の実施
		定期自主検査の実施
		第一種圧力容器取扱作業主任者の選任
第2種圧力容器	定期自主検査の実施	
毒物及び劇物取締法	毒物劇物取扱者(有資格者)の選任	
	適切な保管管理の実施	

### ■ 遵守評価

関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありません。  
また、関係当局からの違反等の指摘はありません。

## 代表者による全体評価と見直し

私どもは、2021年2月よりエコアクション21への取り組みを開始し、4年余り環境活動に取り組んでまいりました。

この間、毎月の環境委員会を主軸におき、委員会にて各部署の取り組み内容を発表し、課題や意見交換を行い、その結果を各部員にフィードバックするという体制が定着しました。

こまめな消灯や節水は基本的な取り組みではありますが、本環境活動の継続により、従業員一人一人の環境への意識が確実に変化した行動であると実感しております。

本2024年度は目標達成に向けて、各部署がそれぞれの取り組みを進めてまいりましたが、電気、LPGの使用量の削減において、目標値をクリアするには至りませんでした。

2025年度は、引き続き省エネ仕様の機器への更新を図ります。また、電気やLPG使用量の見える化による意識向上に努め、日々の取り組みを継続するとともに、環境負荷低減に向けた新たな工夫と取り組みを実践してまいります。

2025年7月1日 福寿製薬株式会社  
代表取締役 小杉 照男